

■定置網の厄介もの「クラゲ」



エチゼンクラゲ (*Nemopilema nomurai*)

食用クラゲの一種で傘の直径が2m、重さが150kgになるものもある大型クラゲの一種。体色は灰色、褐色、薄桃色などがあり、食性はプランクトン。体の90%以上が水分です。東シナ海、黄海、渤海から日本海にかけて分布するが、ここ数年は東シナ海等で

大量に発生し、日本海を北上し、太平洋にまで流入して、ほぼ全国の海岸で見られます。定置網等にも大量に入網し漁網破損、魚類の刺殺、漁獲量の低下、ヒトの刺傷など重大な被害をもたらしました。エチゼンクラゲの由来は福井県（越前の国）の水産試験場長の野上貫一氏の標本に因んで付けられました。（水産工学研究所提供）

ビゼンクラゲ (*Rhopilema esculenta*)

傘の直径は、20~30cmですが、50~70cmになるものもあります。体色は白っぽい半透明で、青みがかかっていることが多く、東シナ海南部、黄海、日本海、九州周辺に生息します。昭和52~54年には有明海に大量発生しました。深い椀状の傘の下にカリフラワーのような纏まった口腕がありますが、ヒトを刺傷することはないと言われています。エチゼンクラゲ、ヒゼンクラゲと共に食用になり、中国では代表的な食用クラゲで日本でも高価で取引されています。昔は瀬戸内海の備前国（岡山県）児島湾で多く発生し、朝廷に献上した記録があるなどからビゼンクラゲと名づけられました。

ヒゼンクラゲ (*Rhopilema hispidum*)

ビゼンクラゲに比べ倍くらいの大きさで、1m、20kg程度にまでなります。食用になり、体色は全体に白っぽい。3ゼンクラゲ（エチゼンクラゲ、ビゼンクラゲ、ヒゼンクラゲ）とも同様な海域に生息する。刺胞毒が強いため、刺されると赤く腫れます。有明海で大型のクラゲになるため、肥前国（佐賀県、長崎県）から因んだ和名です。

ミズクラゲ (*Aurelia aurita*)

傘の直径は15~30cm、傘には縁辺部に毛髪状の短い触手が無数に並び裏側の中央には口腕が4つありますが、刺されても痛みを感じないヒトが多いです。雌雄異体で雄は透けて見え、雌は若干茶色がかっています。水温9~19℃の北緯70度から南緯40度位の世界中の海に生息しています。日本沿岸でしばしば大発生し、漁網を破損させるなどの被害が発生しています。

カツオノエボシ (*Physalia physalis*)

体色は鮮やかな青色。傘の大きさ10cmほどの青っぽい浮き袋に多くの触手を持ち、浮き

袋から伸びる触手は10cm位だが、30cmにも達するものがあります。南方系のクラゲで、九州太平洋岸にカツオが到来する頃、海流に乗ってきて浮き袋の形が烏帽子に似ていることから「カツオノエボシ」と呼ばれるようになりました。触手には刺胞があり、刺されると電撃を受けたような激痛を感じることから「電気クラゲ」とも呼ばれます。ときには刺されて死亡することがある危険なクラゲです。

アカクラゲ (*Chrysaora melanaster*)

傘の大きさは、10~25cm でオレンジ色、触手は 50~60cm ですが、2m を越すものもあります。時には北海道にも現れます。触手の刺胞毒は強く、刺されると大きな範囲が腫れます。本州から沖縄に分布しています。